

瑞二だより

発行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日2月19日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

朝礼より
(2月17日)

おはようございます。

2月に入り、寒さが一段と厳しくなってきました。朝、登校する皆さんの息も白く、冬の真っ只中だと実感する日が続いています。しかし、暦の上では「立春」を迎え、日が少しずつ長くなり、春の足音が聞こえてきています。まだ冬の寒さは続きますが、確実に春が近づいていることを感じることもできる季節です。

今日の朝礼は、3学年が揃う最後の朝礼となります。

この時期、3年生の皆さんにとっては大事な受験が控えています。都立高校の入試が今週末に迫り、緊張や不安を感じている人もいるでしょう。しかし、そんな皆さんに伝えたいことがあります。それは「最後まで諦めない強い気持ちがある」ということです。こういった話は、学年だよりや各クラスの話の担任の先生からも話さ

れているのではないのでしょうか？

私からは、この話の例として次の名言を送ります。

『できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。』

これは次の人の名言です。

パブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ファン・ネボムセーノ・マリア・デ・ロス・レメディオス・クリスピン・クリスピアーノ・デ・ラ・サンティシマ・トリニダード・ルイス・イ・ピカソ

そう、かの有名な「パブロ・ピカソ」です。

ピカソは、20世紀を代表する画家・芸術家の一人であり、独創的な発想と挑戦を続けることで、美術の世界に革新をもたらしました。この言葉は「自分ができると信じていることが、成功への第一歩である」というこ

とを言っています。

まさに「最後まで諦めない強い気持ち」をもつこの大切さを示す言葉ですね。

都立高校の入試が近づいています。3年生の皆さんは、今まで一生懸命に勉強してきたことと思います。しかし、最後の数日でできることはまだたくさんあります。

皆さんの中に、こんな経験はありませんか？

中間考査や期末考査のテストが始まる直前に自分の勉強してきたノートを振り返って確認してみる。そして、ノートをバッグの中にしまい、いざテスト用紙が配られ、「始め！」の合図で問題用紙を開けた途端、自分がさつき確認した問題が、ほぼ同じようなものとして出題されて驚いたなどという経験はないでしょうか。

私は学生時代にそういう経験は数回ありました。その時感じた事は「直前までノートを見ておいてよかった」ということです。そう

なんです。実際にある事なのです。しかし、高校入試のようなシビアな場面で、不正行為と思われるような行動をしてはいけないのは当然のことです。

「もう無理かもしれない」「やっても意味がない」と思うかもしれませんが、そんな時こそ「まだ終わっていない。自分にはできる」と思ってください。最後の1秒まで粘り強く勉強し、できる限りの準備をしましょう。その強い気持ちこそが、試験本番で力を発揮する原動力になることでしょう。

そして、1・2年生の皆さんも、これから迎える自分の挑戦に向けて、日々の努力を積み重ねてください。どんなことでも、最後まで諦めずに続けることが、未来を大きく変えることにつながります。

3年生の皆さん、あと少しです。自分の力を信じ、最後まで戦い抜いてください。皆さんの努力が、必ず良い結果につながることを心から願っています。

以上で私の話を終わります。

校長 滝澤清豪

校長より

令和6年度も、残すところあと1ヶ月となりました。3年生は卒業し、新しい環境へと進みます。1・2年生も学年が一つ上がり、新たな人間関係を築く機会が訪れます。新しい環境に対する不安もあるでしょうが、前向きな気持ちで新生活を迎えてください。

最近、『雑談力』という本を読みました。雑談は目的のない会話と思われがちですが、実は皆さんが日々学んできたプレゼン力即ちコミュニケーション能力と深く関係しています。この本では、雑談力を身につけることで人付き合いが楽になり、人間関係がスムーズになると述べられています。ここでは、雑談をスムーズに進めるための4つの基本的なルールを紹介いたします。

○会話のラリーを続ける

雑談では、無理に面白い話をする必要はありません。話のオチや結論をつけようと思わず、会話を続けることが重要です。雑談の目的は人間関係の構築にあり、会話を通じてお互いの警戒心を解き、自然な関係を築くことが大切です。会話をキャッチボールを意識し、相手の

話に相槌を打ちながら、リズムよくやり取りを続けることが求められます。

○気持ちのやり取りをする

雑談の内容は必ずしも有益な情報である必要はありません。むしろ、単なる情報交換は一方通行になりやすく、会話が続きにくくなります。気持ちを伝えることで相手との距離が縮まり、より良い関係が築けます。情報を提供するだけでなく、

「楽しかった」「驚いた」といった感情を伝えることで、会話が深みが生まれ、相手も気持ちを共有しやすくなります。

○エピソードや経験談を話す

流行のニュースや時事ネタを話題にすると、会話が表面的になりがちです。例えば、「今回の台風はひどかったですね」と話しても「そうですね、大変でしたね」と話が終わってしまうかもしれません。一方、自分が実際に体験したことやその時の気持ちをセットで話すと、自然と感情がこもり、共感を生む会話になります。自分自身の体験談は、相手も心を開きやすくなるため、信頼関係の構築に役立ちます。

○相手の話を肯定し、共感する

雑談は双方方向のコミュニケーションであり、相手の話を尊重し、しっかりと耳を傾ける姿勢が必要です。相手に結論や話のオチを求めるとはなく、相手が気持ちを話しやすい雰囲気を作ることが重要です。また、相手の話が多少間違っていたり、自分の意見と異なったりしても、一度受け入れて会話を続けることが大切です。肯定されることで相手は安心して、本音を話しやすくなります。共感を示すことで、信頼関係がより強固なものとなります。

以上の4つのポイントを意識することで、新しい環境での人間関係構築に役立つと思います。私自身も学校関係者や企業の方々と話す機会が多くありますが、この「雑談力」は非常に重要なスキルだと感じています。新しい環境にうまくなじめるか不安を感じることもあるでしょう。しかし、今回紹介した雑談のポイントを意識して実践することで、コミュニケーション能力を磨き、新しい友人を作り、新たな社会で活躍できる力を身につけられるのではないのでしょうか。

この話が、皆さんの新しい環境での一助になれば幸いです。